

知っておきたい応急手当

災害発生時の混乱状態では、救急車はすぐにはやってきません。専門的な治療はともかく、初期段階の応急手当は、負傷者のそばにいる人が行わなければならないのです。

あなたの大切な人の生命を救うことができるよう、応急手当の方法を身につけておきましょう。

覚えておきたい応急手当のポイント

●出血がひどいときは

- ①きれいなガーゼやハンカチなどを傷口に当て、手で圧迫する。(感染症予防のため、ビニール袋に手を入れて押さえるなど、血液に直接触れないように注意する。)



- ②骨折などで圧迫できないときは、傷口より心臓に近い部分をタオルやスカーフなどで結び、帯などを結び目に差し込んで血が止まるまで締め上げる。

※止血帯を巻いた時間を書いておく。



●骨折の疑いがあったら

- ①患部を動かさないようにして手当をする。
- ②患部に副木(なければ板やダンボール、かさ、雑誌などでもよい)をあてて固定し、早めに医療機関へ。



●やけどをしたら

- ①急いで水道水などの流水で冷やす。
- ②衣服の上からやけどをした場合は、無理に脱がさず、そのまま冷やす。水ぶくれはつぶさない。
- ③冷やした後は清潔なガーゼなどで軽く包み、急いで医療機関へ。



意識のないときは119番!

- ①肩を叩きながら耳元で「大丈夫ですか」「もしもし」と呼びかける。
- ②意識がなければ「だれか来て!」と助けを求め、119番通報を依頼。一人きりの場合は自ら通報を。



救命講習を受講しよう

救急車が119番通報を受けてから現場に到着するまで、全国平均で約8分かかります。この8分間、傷病者の生命を大きく左右するのです。

しかし、人工呼吸や心臓マッサージなどの救命技術は、訓練をしなければ身につけません。

救命講習は、消防署で実施しています。みんなで積極的に受講し、応急手当の方法を正しく身につけましょう。

